

【教 育 目 標】「心身ともに、たのもしの子の育成」

【めざす児童像】 ①互いに学び合う子【知】
②やさしく助け合う子【徳】
③健康で命を大切にする子【体】
④地域を大切にし礼儀正しい子【郷土愛】

【目指す学校像】 「今日が楽しく 明日が待ちどおしい学校」
～「わくわく」「どきどき」「感動」を根底に、子どもの心に火をつける！～
・意欲的に授業・行事等に取り組む子どもたちに（達成感、満足感）
・大きな声であいさつし、自分を表現できる子どもたちに（自信）
・自分をしり、より良い自分に挑戦する子どもたちに（目標、自主性）

1 学習指導

評価の目標	具体的な取組	主担当	評価の観点	学校自己評価		取組及び課題解決に向けた改善策	学校関係者評価	
			達成度評価基準	中間	最終		改善策の適切さ	意見及び改善点
児童の学習力向上を目指す ・学習意欲を高める ・学びの経験値を高める	・教師と児童による学習規律や学習ルールの共有 ・生徒指導の3機能（自己決定・自己存在感・共感的人間関係）を生かした授業づくり	授業づくり	学習規律と学習ルールが教師と児童の間で共有され、落ち着いて学習に取り組んでいる 「なぜスタディーマナーが必要かを考えて守っている」児童の割合 A: 60%以上 B: 50%以上 C: 50%未満	C	B	・全校集会でスタディーマナーの必要性を伝える	A	・集団生活の基本は規律・マナーの遵守である。その必要感と共に身につけることが大切で、繰り返しの指導が大切。学習意欲の向上につなげていくとよい。 ・子どもの自主性を自慢できる学校を目指してほしい。 ・スタディーマナーは基本中の基本。60%に上げたら教師冥利に尽きると思う。
	・考えさせる時間・話し合う時間を重視した授業づくり ・学んだことを生かす場の設定		考えさせる時間や話し合う時間を重視した授業が、児童の学習力向上につながっている 「相手の話を最後まで聞いて自分の考えを伝えている」児童の割合 A: 60%以上 B: 50%以上 C: 50%未満	B	B	・聞く視点を明確にする ・話し合う必要のある場を設定する	A	・相手の意見をよく聞いて自分の主張をするべき。それが話し合いである。 ・近年子供達の学力向上が著しいのは先生方のおかげである。引き続き向上できるよう、頑張ってもらいたい。
基礎的・基本的な知識や技能の定着を目指す ・個に応じたきめ細かな指導の充実	・書く活動の充実（短作文の推敲、新聞投稿） ・家庭学習による予習力・復習力の向上（20・40・60運動+10分、ふりかえり） ・学習用語の定着（用語学習） ・全校漢字・計算テスト（年2回）	基盤づくり	短作文などを書く活動が児童の文章を書く力の向上につながっている 短作文を、年間50枚書いた児童（中間目標は18枚） A: 全クラスで達成 B: 10クラスで達成 C: 9クラス以下	B	A	・枚数の達成を目指すだけでなく、文章の内容の充実（根拠や理由を明確にして自分の考えを書く）のために、具体的に取り組んだ。 題材の精選・推敲問題の実施 根拠や理由の内容例の提示	A	・まずは、枚数、字数の達成。そして徐々に質の向上が求められる。全クラスで達成できたことはすばらしいことである。 ・短作文・バリ勉ノートの取組はよい。
	・土曜授業の充実 ・リテラシータイム、放課後学習の充実 ・漢字検定 ・情報モラル教育 ・防災教育	体制づくり	5限開始前の補充学習が全校の取組として計画的に行われ、成果を上げている 市学力調査で目標を達成した割合（6学年×2教科=12を100%として算出） A: 60%以上達成 B: 50%達成 C: 49%以下		B	・リテラシータイムで扱う問題等を見直し、全校テストや用語テストと連動させながら、基礎的な学力の定着を目指す。	A	・リテラシータイムは次の学習への土台となる。また、各テストと連動していることが意欲の向上になる。 ・学力調査の結果だけを追い求めるような指導にはなってほしくない。 ・自主学習の取組は十分である。我が子の様子を見ると、予習の仕方がわからない感じである。

2 生徒指導

評価の目標	具体的な取組	主担当	評価の観点	学校自己評価		取組及び課題解決に向けた改善策	学校関係者評価	
			達成度評価基準	中間	最終		改善策の適切さ	意見及び改善点
自尊感情・自己肯定感を高める	・教師主導から児童の企画運営による諸活動（達成感や満足感を高める） ・生徒指導の3機能（自己決定・自己存在感・共感的人間関係）を生かした委員会活動や行事の運営	特別活動	児童が自分達で決め、協力して活動する場を作り、児童の満足感や達成感につながっている 「学級や学校をよりよくするために自分たちで考えて活動している」と答えた児童の割合 A: 80%以上達 B: 70%以上 C: 70%未満	A	A	・高学年だけでなく、低学年や中学年が活躍できる場を作る。 ・代表委員会を児童会組織のなかにしっかりと組み込み、立場を明確にする。	A	・自己決定は何ごとにもその人間の意欲につながる。生徒指導の3機能を生かした取組は、人間性の向上につながるものである。 ・6年生を送る会のまともりは素晴らしかった。 ・今の状態を続けてほしい。

いじめ、不登校の未然防止	・あいさつ、あきらめない、あとかたづけを通した集団づくり(3あ運動) ・生徒指導の3機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を生かした諸活動の推進 ・いじめアンケートやQ-Uアンケートの実施と結果を生かした迅速な対応 ・外部の専門家との連携	生徒指導	児童がお互いに助け合い、協力して活動する場を作り、児童の友達との温かな関係づくりにつながっている 「困っている友達を助けたことがある」と答えた児童の割合 A: 80%以上 B: 70%以上 C: 70%未満	A	A	・友達の嫌がる言葉を使う児童は各クラスに数名だが、その数に流されて同じように嫌がる言葉を使う児童が見られる。人が嫌がる言葉を「使わない」「言い返さない」ということを全校で徹底していく。	A	・いじめの根絶はその人間の人間性の向上にある。具体的には3あ運動、人が嫌がる言葉を「使わない」「言い返さない」ということである。あたたかい人間関係づくりが社会の基盤となる。
--------------	---	------	---	---	---	--	---	--

3 心の教育・体力向上・健康増進

評価の目標	具体的な取組	主担当	評価の観点	学校自己評価		目標達成及び課題解決に向けた改善策	学校関係者評価	
			達成度評価基準	中間	最終		改善策の適切さ	意見及び改善点
豊かな心を育てる道徳教育を推進する	・時期とねらいを明確にした道徳・学級活動の実践 ・保護者や地域と連携した道徳の授業（授業の公開・ゲストティーチャーの活用）	道徳推進	保護者や地域と連携した道徳の授業を行い、児童が自分自身を見つめ、考え、判断する力を育てる ゲストティーチャーを活用した授業を行ったクラスの数 A: 2回以上実施したクラスがある B: 全クラスで実施 C: 実施しなかったクラスがある	C	A	・新年度から始まる道徳の教科書を使った授業でも、ゲストティーチャーの活用を継続できるよう、計画する。 ・道徳の授業公開と、考え・議論する道徳の授業研究を計画的に行う。	A	・3についての改善策は言うことなしである。実行できると良い。 ・道徳的実践力が実践につながるとよい。 ・学校と家庭と地域の連携強化を図ることができる取組である。活動回数の増加を期待する。
望ましい生活習慣の確立を図り、健康管理を推進する	・早寝・早起き・朝ご飯の推進 ・SNS機器の利用についての指導	健康美化	早寝・早起き・朝ご飯を中心とした指導を行い、望ましい生活習慣が身についている 就寝時間を守っている児童の割合（低学年9時半、中・高学年10時） A: 全クラスで達成 B: 10クラスで達成 C: 9クラス以下	C	C	・すっきりモーニングの取組を通して全学級で指導し、保護者へも呼びかける。 ・ほげんだよりを発行し、朝食・睡眠の大切を伝える。	B	・アンケート実施の時期が大切。通常の時にするのが適切である。 ・生活習慣の改善には、家庭の取組が重要である。
児童の体力向上に努める	・年間を通して持久力と跳躍力の向上を目指す		年間を通した取組により、児童の持久力が向上している シャトルランの結果が設定目標に達した割合（4・5・6年×男女＝6を100%として算出） A: 100% B: 66%達成 C: 65%以下	C	C	・マラソン大会後に行ったシャトルランでは、4年男子・5年男子・6年男子が目標を達成。 ・4～6年女子は目標値には達しなかったが、県平均を9～10ポイント上回った。 ・今年度課題としてあがった柔軟性や敏捷性の記録が伸びるように、来年度は体育の授業の準備体操・運動を通して柔軟性や敏捷性の運動に1年間継続して取り組む。	A	・目標設定の適否が問われる。

4 保護者や地域との連携

評価の目標	具体的な取組	主担当	評価の観点	学校自己評価		取組及び課題解決に向けた改善策	学校関係者評価	
			達成度評価基準	中間	最終		改善策の適切さ	意見及び改善点
地域に根ざし特色ある教育を進める	・参観から参画へのPTA活動 ・保護者、地域と連携した各種行事の企画及び運営	教頭	保護者が積極的にPTA活動参加している 学年懇談・行事への参加率 A: 50% B: 45%達成 C: 45%以下	C	B	・必要な内容の学年懇談会を設定し、回数を絞り全員参加を目指す。（4月＋2月） ・非行被害防止講座などを授業参観後に行う。	B	・目標を達成した鳳王がよかった。よろしく願いします。 ・設定した数値目標との比較が大切。時期の単なる変化ではなく、年間の評価をするとよい。 ・学級懇談会の参加率は低い、行事の参加率は高い。さまざまなアイディアを出しながら懇談会の参加率を上げるとよい。
保護者や地域から信頼される「開かれた学校づくり」を目指す	・学校ホームページの作成と更新 ・学校便りや学級便りの発行		学校便りやホームページなどから学校の様子がわかる 「学校のおたよりが届いている」と解答した保護者の割合 A: 90%以上 B: 80%以上 C: 79%以下	B	B	・お便りファイルの取組の継続 ・ホームページの内容の工夫・職員による更新回数を増やす。 ・児童の変容が分かるお便りを発行していく。	A	・登校時には車でのお迎えをしているのに、PTA活動には参加できないという現状には不満が残る。 ・おたよりファイルの取組が良かった。

改善策の適切さについての評価をご記入の上、3月9日(金)までに学校へお出しください

学校評価における取組及び改善策の適切さを評価する観点

A: 適切である

B一部見直しが必要

C: 大幅な見直しが必要